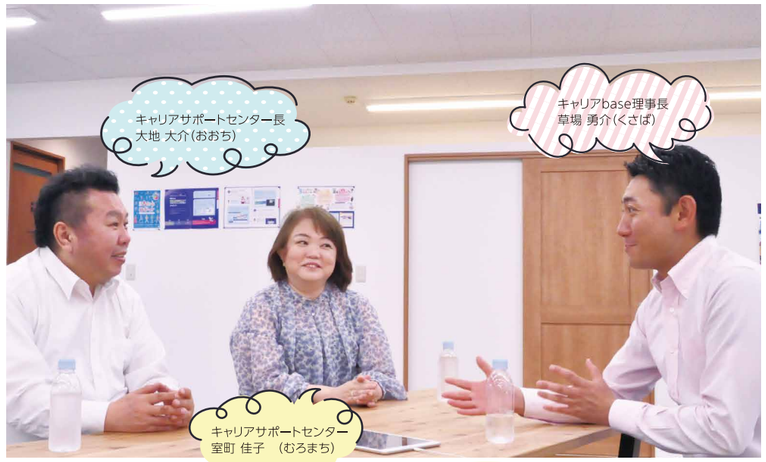
この距離感だから生まれる関係性を大切に
生徒と社会をツナグ、追い風になる

～キャリアサポートセンター×キャリアbaseの初の座談会～



いろんな仕事の経験があるからこそ、伝えていきたいこと

くさば　今日はありがとうございます。楽しみですね。まずお二方の自己紹介からお伺いしてもいいでしょうか。今の仕事へ就くまでの経緯もぜひお聞きしたいです。

おおち　実は、私が教員になったのが少し遅くて三十八歳なんです。それまでずっと音楽をやっていて、ブリーターと音楽と、みたいな生活でした。バンドやってたんですね。

くさば　うわぁ！いきなり、面白いお話が出てきましたね！

おおち　昨年、活動してきたバンドのドキュメンタリー映画も公開されたんです。それぐらい夢中になって取り組んできました。でも、三十五歳になったときに、「このままだと先が見えない」と考えはじめました。大学も中退していて、そして三十五歳から大学に入りなおして三十八歳で教員免許を取ったんです。お世話になった方が通信制高校を経営していたこともあり、そこからスタートして、縁あって鹿島学園高校に転職してきました。教員としては十五年くらいの経験ですが、ずっと通信制高校の生徒をみてきたので、そこをこれからも生かしていきたいですね。

くさば　大地先生自身が、「学びなおし」をしていて凄いですね。人生二回目というか。社会人になっても、学びなおして、人生を変えられる見本のような存在ですね。ちなみにキャリアサポートセンターでの今の役割は、いつ頃からですか？

おおち　キャリアサポートセンターというのが、就職という出口支援を整えたいという理事長の思いのもと、約三年前に出来たんです。最初は就職に特化していましたが、進学も同じように、キャリアや心のサポートが必要だと考えています。進学については学習支援施設の先生たちも自信を持った指導ができる領域なのですが、卒業したその先も見据えて活動しています。

くさば　いま全体の進路の割合はどのようになってるんですか？

おおち　卒業生約二千名のうち、約五割進学、約四割が進路未決定、一割が就職です。進路未決定というのは、進学を希望してたけど何らかの理由で進学できなかったケースや、就職を希望していたけれど内定が取れなかったことなどあります。進学を希望していたけれど、というケースの方が多いですね。

むろまち　進学も就職も自分の進む道を見つけたら変わってくると思います。五月のアルバイトと正社員の違いの話では、そこそこお金もらえるからこのままでいいんじゃないかと思っていたけど、話を聞いて生涯年収が四千万以上も違うんだって分かって驚いたという感想がすごく多かったんです。昨年の「お仕事図鑑」編では、私たちも驚いたんですけど、職種などで選ぶのではなくて、その会社の社長や先輩を知って「あんな所で働きたい」「あんな楽しい社会人生活が送れるんだ」って。その子にあった雰囲気や環境の会社に行けることって幸せなことで、良いキャリアのスタートを切れると思うんです。

くさば　社風というか、そういう面でも会社を選べるようになってくるといいですよね。

くさば　では、室町先生の経緯も聞いてもいいですか？

むろまち　私は新卒で就職情報会社に入社しまして求人媒体を売る営業から、階層別の教育研修など担当しました。その後、不動産販売や、スキーチームとタイアップしたイベントの秘書をやってました。メンバーが四人しかいなくて、経理からなにから全部やったんです。それから二十八歳で人事派遣会社に転職して、人と企業をむすびつける人材コーディネーターになり、一人一人のキャリアを聴いて、こんな人が欲しい！という企業とのマッチングを長くしていました。そんなところに、同級生がたまたま鹿島学園におりまして「キャリアサポートセンター」を立ち上げてマッチングする人を探しているとなって。学校に関わるなんて思いもよらなかったですが、生徒が可愛くて、上司にも恵まれてるんです。

おおち　学校の中にいると見えなくなってしまう事が結構あるんですけど、外から入ることで全然違う風が吹いているのでいいですね。

くさば　すごいですねー！この話、生徒たちは知ってるんですか？

おおち　いや、言ってないですね。異質な感じがしますかね。

くさば　すごく魅力的なキャリアサポートセンターですよ。プロのドラマーと人材業界のプロがいるっていう、他にないですよね。

むろまち　いろんな生徒がいますので、大地の経験とか私のいろんな人出逢ってきた経験とかを活かせたらと思います。

おおち　実は結構いろんな経緯の職員がいて、その面白みも自分たちで伝えられていけたらいいなって思います。約千定規だけじゃなくて、もうちょっと柔らかくてオープンな気持ちを持っているかなっそれの指導っていうのを、各キャンパスやってると思います。就職っていうところで、怖がっちゃうところがあるんですがずっとそこで働くってことではないので、そこを我々がサポートできればと思います。

くさば　いろんな仕事の経験のある先生ってほんと貴重です。室町先生は新卒で入社した会社ではどうでしたか。

むろまち　はい。希望と違う営業に配属されて、泣きました。多くの先輩方が熱心に指導してくれて、特に熱心に指導してくださった先輩のおかげでトップ営業マンになれたんです。お礼がしたいと伝えたところ「後輩ができたらその子たちに」と言われて、その方は私が鹿島学園に入った時期に亡くなってしまったんですが、私がやってもらったように、生徒を送り出したいなっていう熱い思いがあって鹿島学園へ入ったんです。

早い段階で、正しい情報に触れて、自らの判断で働くことを選んで欲しい

くさば　うんうん。室町先生はそういった熱い想いがあって鹿島学園に来られて、中に入ってみてなにか課題とか感じられましたか？

むろまち　私が生徒を受け入れてくれる企業について知らないという事です。まず私が社長だったり人事と会って「ああ、このコと、この会社合うな」っていうマッチングをしたいのです。今、名刺交換会などを飛び回ってます。小さなスタートかもしれませんが、同じような動きをする人が全国に少しずつ増えていけばミスマッチが減っていくと思います。

おおち　私は、通信制高校の先生になったときに「毎日学校に行く」のは簡単なことなのか？って思うことがあって、朝起きて、ご飯を食べて、学校に行くっていう一般的に繰り返されてきた習慣がありますよね。通信制高校にくる子は、そのどこかに歪が生じて、でも高校の卒業はしたいっていう子が多くて。じゃあ週に一度レポートにおいで、あとは自由な時間ってなったときにそこから自分自身の時間をセルフコントロールして卒業するための行動と自由を両立しないといけないんですが、すごく大変なことだと思うんです。やりたいことを見つけられない子も多いので。僕が最近思うのは「就職する」っていう強い心をどういう風に見極めればいいのかっていうところです。就職希望だけれど、まだそこに至っていない場合があります。朝起きて出勤して働いてっていうことが果たしてできるのかの所ですね。七月一日に求人情報が公開されてみんな一斉に動き出す中で、まず毎日同じ時間に起きてっていうような日常のサイクルを創らないといけないと感じています。進学も同じなんですけど、「継続できるチカラ」というか、グレーゾーンと呼ばれる手帳は持ってないけれどっていう生徒もいるのですが、進学も就職も生活習慣作りは必須になってくるなって思うんです。

むろまち　急に決められた時間で勤務は辛いですよね。社会人になる心構えは自分でも持ってほしいし、お給料を貰うのでそこは当たり前だろうと思われる企業も多いとは思いますが、「育てていこう」って思う企業が増えてくれたらいいなと思います。生徒たちに一番伝えたいのは「何かスキルを持ってほしい」ということです。それは「資格」とかではなくて、人と接するスキルでも、パソコンを早く打てるでもなんでもイイと思うんです。単にアルバイトをやるんじゃなくて、そこで何かを得てほしくて。終身雇用ではなくなった今だからこそ、今いる場所で何かを得ながら、自分の市場価値を高めていくように、最終的にやりたいことが見つかったときに、それに向かえる様な自分でいてほしいです。そのためにも最初の就職先って大事だから、二年生の春くらいからの意識づけが大事だと考えています。

くさば　早めにちゃんとした情報に触れるだけでもだいぶ違うでしょうね。

むろまち　例えば、介護のお仕事ってマスコミから流れてくる情報ってキツイとか厳しい内容が多っかたりするんですけど、実はそこにはやりがいがあって受け入れてくれる企業も多くてっていう、目に見えてるものだけじゃない情報を伝えていって、生徒たちが選んでいってほしいと思います。

経験を積んで、できることを増やすとやりたい仕事に近づくことが出来る

くさば　大阪の全日高校の授業で、一番最初に「世の中に職種は一万七千くらいあるんだよ」って話をするんです。その時に使う動画が、ＮＨＫ『プロフェッショナル』の、ゴミ収集員の方の動画で「社会から必要とされていないんじゃないか」と思う中、いつものようにゴミ収集にいったら、「ゴミ置き場」にいつもありがとうございます」というお手紙と、差し入れのコーヒーが置いてあって、見てくれてる人もいるんだと気づいてから考え方に変化が起きて、今は「この街を綺麗にすることが俺の仕事だ」「みんなで街を綺麗にしましょう」って、啓蒙活動されてるんです。仕事って、必ずしも自分のやりたいことが見つかるわけじゃないですよね、やりたいことがお給料にならないとかね。最近よく、「Ｗｉｌｌ」「Ｃａｎ」「Ｍｕｓｔ」の話をするんです。「Ｗｉｌｌ」はやりたいこと、「Ｃａｎ」はできること、「Ｍｕｓｔ」はすべきこと。この三つが重なると一番いい仕事らしいんですけど、これは自分が経験を積んでいくと、「Ｃａｎ」や「Ｍｕｓｔ」が育って、「Ｗｉｌｌ」に繋がっていくんだよって。室町先生が仰っていたようにできることを増やしていって欲しいですね。それに大地先生のように三十五歳からキャリアチェンジできるっていうのもいろんな経験の積み重ねがあってこそですよね。

おおち　できることで言えば、私はいろんなバイトをしてきたんですよね。生コンデリバリーっていうのもやったんですけどとても面白かったです。夏は、ちょっと柔らかめでこれくらい持ってきてほしい、というのを間に入って調整していくんですが、その生コンは基準値を満たしているのかを調べる試験屋さんがいたりもして。最近のニュースで「強度の基準を満たしていない生コンや、「生コンに混ぜ物があった」とか見ると、多くのビルで使ってしまってるんじゃないか、どうするんだろうって思ったり。世の中にはこんなにいろんな仕事があって「二つ」が面白くて、それも今後伝えることができるなって思います。

むろまち　そういうのって経験があるから、どうするんだろうって気づくんですよね。将来こんな風にニュースを読み解く力に繋がるって当時は分からないですよね。何かに全て生きてくるし無駄はないんだっていう。意にそぐわない仕事でも、視点を変えてみると面白いと感じる面があるっていうことを、大人から発信出来たらと思います。

くさば　そうですね。最後に一緒に取り組んで行きたいことってありますか。

むろまち　いろいろなアイデアをもらいながら、第三の教職員というイメージなんですけど鹿島のキャリアってこうよ、というのをキャリアｂａｓｅと一緒にやっていきたいです。

おおち　私は、対面で草場さんに話してもらいたいなって思います。熱量を感じてほしいなと。全国をブロックにわけて一緒に出張に行って話してもらって、これなかった子たちには同時にオンラインで配信したりとか将来的にイイなって思いました。

くさば　ありがとうございます。キャリアｂａｓｅのイメージは港で、いつでも帰ってきていい、出発するまでの準備や出航の時が来たら、追い風になるような存在をイメージしていて、キャリアサポートセンターと共通点を感じました。

おおち　出口とその先の生き方について、意識改革や教育もできるような、仕組みが大事だなと思います。就職セミナーの情報は本校の職員にも見てもらいたいです。ポトムアップというか、進学だけではなく、これからの教職員は就職にも理解を深める必要がありますね。求人票だけだと読み解けない、会社の深堀りをしていく力が求められてきます。

くさば　お二人のお話を聞いて、こんなに異質で魅力的なキャリアサポートセンターって他にないなって思いました。また一緒に、いろんなことをざっくばらんに話していきましょう！

★キャリアbase 草場勇介 profile★
for nextグループ代表・キャリアbase理事長:慶應義塾大学経済学部卒。在学中は慶應高校野球部コーチとして甲子園出場、全国ベスト8。キャリア教育の実践家・起業家として、これまでに延べ1,000名以上の就職・転職相談を担当。学校現場においても、延べ50校を超える高校でキャリア教育や、進路・就職に関する授業を実践。2021年～鹿島「就職セミナー」講師。

★ロケ地協力:zunÔw（ズノー）かしわSTEAM教育研究所 ★企画:NPO法人キャリアbase
・Instagram→ career_base　・Twitter→ https://twitter.com/CAREER_base00　・ふらっぽ→バーチャル居場所空間にて随時進路相談の予約受付中
お話に出てきた情報→「自分を拾う、夢を運ぶ～ゴミ収集員・岳裕介～」https://www.nhk.jp/p/professional/ts/8X88ZVMGV5/episode/te/M89JG7R7RV/

career base キャリアベース